# HFHJ News Letter

Habitat for Humanity® Japan

28 2013 February

ハビタット・ジャパン ニュースレター
第28号 2013年2月発行

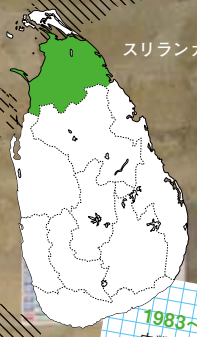
世界の現場から

## スリランカ

東北ソーラー発電　無印良品×ハビタット

世界の
現場から
vol. 01

# Sri Lanka
## スリランカ




**1983〜**
内戦勃発。約30万人の国内避難民が発生

**2009〜**
内戦終結に伴い、避難先からの帰還が始まる

**〜現在**
長年の紛争で故郷は荒廃。ワラやビニールシートなどを組み合わせた急場しのぎのシェルターでの生活が続く

News 1

## 紛争帰還民300世帯以上の再定住を支援

Before

After

### スリランカ北部マナー県

紛争帰還民の生活再建をサポートし、再定住を促進するため、ハビタット・ジャパンは特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム助成のもと、ハビタット・スリランカと連携し、2011年4月より北部マナー県で住居建築を通じた再定住支援を開始。昨年6月25日には、同県ニラセネ村、ワッタカンダル村において100軒以上のコアハウス（ハビタットの住宅としては最もコンパクトで最低限の住居機能を備えた規格）の建築を達成しました。

## Home Partner Story ―ワッタカンダル村のサブハンさんの場合―

紛争帰還民の一人、サブハンさんの一家が暮らすのは、3世帯が同居する窮屈な家。家族の部屋は6畳一間のみ、トイレもない家での不自由な日々が続いていました。

今回、サブハンさんはハビタットの支援を受け、自らの家の建築を開始。「将来は家庭菜園を作り、とれた野菜を販売したい」と、スウェットエクイティ作業にも熱心に取り組んできました。現在、サブハンさんは家の一部を利用してお店を開業。そこで干物やバナナ、軽油などを販売しています。「商売をはじめたことで、安定した収入と貯蓄の見通しを立てることができるようになりました。夢への一歩が踏み出せ、未来のことも考えられるのは、ハビタットハウスのおかげです」と、目を輝かせて語ります。

News 2

# 井戸・トイレの設置を通じて衛生環境の改善を支援

## マナー県サンナール村

支援地の一つ、マナー県サンナール村には、200世帯を超す家族が再定住していますが、使用できるトイレは一つもなく、飲料水用の深井戸も2基のみ。100世帯が1基の井戸を使用している計算になります。

ハビタット・ジャパンは2012年7月からトイレと井戸の設置を通じた、紛争帰還民の水衛生環境改善の支援を行なっています。井戸・トイレの設置に合わせ、支援対象世帯および村の子どもたち向けの衛生トレーニングも実施。飲料水の煮沸や石けん手洗いの効果、また、トイレの清掃や維持管理の大切さを中心に学習しているところです。

今後、2月末までにすべての井戸とトイレの設置を完了し、再定住支援の活動をハビタット・スリランカに引き継いでいくとともに、サンナール村などでのコミュニティ支援を継続していく予定です。

### 飲料水用の井戸ができるまで

まずは削岩作業からスタート。マナー県のような沿岸部では、地面を深く掘りすぎると淡水の地下水脈と海から侵入してくる塩水の流れをつないでしまう可能性があるため、水脈調査などの綿密な計算に基づいて慎重に進められました。

最初の井戸が完成すると、村の子どもたちが手押しポンプの感触を確かめたり、井戸の水で顔や手を洗ったりと大はしゃぎ！

### トイレができるまで

あらかじめ鉄筋コンクリートなどの建築用資材をつなぎ合わせ、ある程度形となったものを現場で設置する「プレキャストトイレ」を採用。製造工程は約3日で完了し、少人数でも効率よく作業が進められるため、トイレを急務としているサンナール村のような場所で強みを発揮します。

村では裏の茂みがトイレ代わりでした。今回、初めて家族だけのトイレを手に入れて、心から感謝しています

トイレ設置を
一番乗りで終えたルシュバンさん

## ハビタット支援 memo

### スウェットエクイティとは？

ホームパートナー家族がボランティアとして、自身の住居建築に労働力を提供する制度のこと。多くの場合には近隣住民の住居建築にも関わるため、さまざまな相乗効果を生み出すのに役立っています。

### メリット

1. 建築費の削減
2. 新居所有に対する自負と自尊心を高める
3. 住居の維持と管理習得につながる
4. 地域コミュニティにおける助け合いの精神を推進

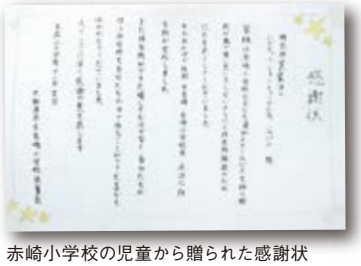
## Japan　日本／宮城県・岩手県

# ここから出発！「復興行き」バス停

震災によって地元の学校が被災した東北の子どもたちは、別の地域にある学校までバス通学をしています。しかし、バスを待つ停留所には軒先もなく、雷雨や雪、そして周囲に残る瓦礫の危険に身をさらされていました。「待合所のある、きちんとしたバス停を」という声の高まりとともに、地元住民や地域の他団体と今回の支援を計画。昨年の10月から11月にかけ、宮城県東松島市と岩手県大船渡市で5軒のバス停建設を行いました。

現場では、「いつ完成するのだろう、楽しみにしています」と、ボランティアに声をかける父兄の姿も。作業最終日には、子どもたちや父兄らも作業に加わり、壁をペイント。一貫して住民主体で動かす活動を目指しました。

「自分たちの手で作り上げるよろこび」。そう添えられていたのは、子どもたちから贈られた感謝状。バス停に描かれた虹の絵とともに、子どもたちの想いも支えていく取り組みとなりました。



赤崎小学校の児童から贈られた感謝状

地域の休憩スペースとしても活用！

## Thailand　タイ／中北部ピッサヌローク県

# タイで洪水被災者の住宅修繕支援スタート！

過去最大規模であったといわれる、東南アジア一帯を襲った2012年の水害。タイでも200万人以上の人々が被災しました。特に、同国ピッサヌローク県ではヨム川・ナン川の巨大河川が氾濫し、県全体で2万軒以上が被災。場所によっては3m以上浸水し、半年にわたって水が引かなかった地域もあります。

被災から1年以上が経った今も、政府の施策や国際的な支援は十分に行き届かず、技術的・資金的理由からも住宅修繕の見通しが立たない世帯が多く存在します。

今回の支援では、被災世帯のなかでも自力で修繕を行うことが極めて困難な社会的弱者層（貧困世帯、高齢世帯、寡婦世帯、乳児・病人・障がい者や多くの児童を抱える世帯など）50世帯を対象に、特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム助成のもと、住宅の修繕を行い、その居住環境を改善していきます。

壁や床が崩落、トイレが使えない、家の支柱が傾いているといった劣悪な環境の改善を目指して支援を開始

**支援金募金受付中**

**詳細はHPをご覧ください　http://www.habitatjp.org**

# 東北の未来を照らす ソーラー発電

昨年の11月、ソーラー発電システムを活用した支援事業「ひまわりプロジェクト」を、建設用電動工具メーカーのヒルティ・グループおよび経済情報サービス会社ブルームバーグL.Pとの協力により、新たに開始しました。震災以降、ソーラー発電は「原発に頼らない、再生可能エネルギーの活用」として注目を集めてきました。災害などの緊急時でも自家発電で電気を供給することができるため、被災地における意義も見直されています。

これまでハビタットは被災者の住環境改善を目的に活動してきました。しかし、現在では緊急支援の段階は越えつつあり、人々の視点も恒久的な住まいへと移りはじめています。今後は、生活を立て直すための収入確保という課題に向けた、長期的な復興支援を実現しようと考えています。

2013年3月末までの第1期事業では、被災した世帯のうち、重度の障がい者を抱える世帯が対象。2-3kWのソーラー設置を行い、電気代の節約と余剰電力の売却を通じて家計を支えます。ソーラーを設置すると月に数千円ほどの電気代を浮かせることができ、場合によっては年間で10万円の節約になることも。これは、より支援を必要とする障がい者世帯のなかでも、特に低所得の世帯にとって大きな意味をもちます。

申込受付はすでに開始。現在、市内の福祉施設や病院、行政からの協力を得ながら、支援の存在がこれらの世帯に行き渡るように周知を図っています。今後、申込者の生活状況などを確認したうえで戸別訪問を行い、屋根の形状や日射の状況を含む技術調査を実施したあと、支援が決定した世帯からソーラーを設置していく予定です。支援世帯数は10～15世帯。

# 学生支部メンバー50人で 東北ボランティア！

全国19の大学キャンパスを拠点とし、年間を通じて海外住居建築活動（グローバル・ヴィレッジ・プログラム／GV）に参加するかたわら、東北復興支援プログラムも手がけているハビタット・ジャパンの学生支部（キャンパスチャプター／CC）。2012年11月、宮城県東松島市や名取市などで学生主体の東北ボランティアが実施されました。

今回リーダーを務めた小西貴之さん（中央大学2年生）は、宮城県利府町の出身。自身も地元で被災し、ハビタットの仲間をはじめ、多くの学生に海外だけでなく東北での支援にも関わってほしいという想いがこの企画を立てたきっかけでした。1日で50名もの仲間が集まり、2日間に渡る活動の実施が決定。個人宅のがれきの撤去、公民館の外壁修繕、ベンチ・縁台の製作など、さまざまな作業に携わりました。

活動初日、震災時とは見違えるほどに整然とした街並みを見て、小西さんは自分が体験した辛さは他の人には伝わらないと思ったそうです。しかし、人が住んでいた場所に何もないという不自然さは参加者の胸を打ち、大きな反響を呼びました。「参加してよかったと、アンケートに書かれていたのを見た時は、涙が出るほどうれしかった」と、小西さん。「やはり実際に行ってみることが大切。参加した一人ひとりが自分で体験したことを周りの人に伝え、少しずつでも東北支援の輪が広がっていけばいいと思います」と語ります。

活動終了後、参加者たちを含む学生支部メンバーは、現地に行かずともできる支援があることを訴えるため、東北支援のための募金活動をスタート。自分たちの手で支援の輪を少しずつ広げています。ハビタット・ジャパンのユースプログラムは、今後もこうした学生主導の企画をサポートしていきます。

# TOPICS

HFHJ Newsletter 28

## ハウスサポーター募集中！

ハウスサポーター（会員）になると、月々1,000円でハビタット・ジャパンが行う国内外の取り組みを支援し、ハビタットが目指す「誰もがきちんとした場所で暮らせる世界」の実現に参加することができます。

**例えば、スリランカでは…**

年会費分、月々500円で窓1枚　月々1,000円でドア1枚　月々5,000円で屋根一面　※詳しくは近日公開予定の会員専用ページをご覧ください

## 海外ボランティア募集中！

ハビタットが実施する海外建築ボランティアプログラム「Global Village（GV）」。建築技術や経験を問わず、チームもしくは個人単位で参加可能。ほかにはない学びと体験のチャンスです。

**〈プログラムの特徴〉**

**▶汗をかいて世界を知る**

現地の人々と家を建てるなかで、現地の生活、文化、貧困、そして彼らの笑顔を知ります。

**▶しあわせを建てる**

ホームオーナーは新住居で家族と希望に満ちた生活をはじめます。それは「家」以上のもの。

**▶Give&Take**

現地での建築活動や人々との交流を通し、差し出した以上のものを受け取って帰ってきます。

**▶みんなで変わる**

現地では、自分たちが周りから助けてもらうだけの存在ではないこと、人を支えることの意味を知り、コミュニティ自体が変化。参加者も自分が行動することの価値を知ることができます。

## ご存知ですか？無印良品の募金券

ネットストアで買い物をするように、10円、100円単位でwebサイトから気軽に寄付ができる「無印良品の募金券」。この仕組みを通じて寄付をいただくだけでなく、国内外で起きている社会問題の実態や、そのために支援活動を行っている団体について、広く認知されることを期待した取り組みです。

今回、ハビタット・ジャパンは無印良品の募金券の寄付先の一つに選ばれました。ここで集められた支援金は、株式会社良品計画を通じて、ハビタット・ジャパンの東北復興支援プログラムに寄付されます。

**募集期間：**～2013年2月24日

**募金はこちらから：** http://www.muji.net/store/cmdty/donation

## 災害支援ボランティア募集中！

地域に密着し、汗を流して作業することで、地元の方々と深く交流できる機会です。

**活動場所**　岩手県大船渡市および宮城県石巻市、東松島市、名取市ほか

**活動日程**　A：2013年2月9日（土）～11日（祝）
B：2013年2月16日（土）～17日（日）
C：2013年2月　※ABCともに1日のみの参加も可能

**活動内容**　仮設住宅での縁台やベランダ製作、公民館や集会所の修繕、倉庫などの建築
被災家屋や農地の清掃（がれき撤去、解体）農業・漁業支援など
その他、現地ニーズに応じたボランティア活動

**参加費**　1人1日1,500円～

※ボランティア活動保険、現地での移動・宿泊場所（公民館、集会所など）・活動日の昼食はハビタット・ジャパンにて手配します
※集合場所までの交通費、現地での朝食・夕食、その他諸費用（入浴料など）は本人負担となります

## 今月のハビびと

ハビタット・ジャパンで活動する、熱き人々

### アリ・イザディさん

ブルームバーグ
ニューエナジーファイナンス アナリスト

アリさんが働く「ブルームバーグ（以下BBG）」は、経済情報の配信サービスを提供する企業。世界各国でハビタットの活動を支援するグローバルパートナーのひとつです。東日本大震災後、「東北のために何かをしたい」と思い続けていた彼は、会社の協力を得て、東北ボランティア第1回目を実現。社員約80名を引率し、岩手・宮城の両県でボランティア活動を実施しました。地域の人々の温かさにも触れ、BBGメンバーの結束力は強まります。この時のメンバーたちは部署を超え、なかには営業時間さえも超えて交流を続けているそう。「企業にとって、こうしたボランティア活動の一番の利点はチームビルディングの要素。新入社員研修などに導入するといいですね」と、アリさんも言います。

BBGはボランティア休暇を活用する社員が多い企業。アリさんはより多くの日本企業が社員の社会貢献を支えるようになってほしいと語ります。企業の社会的責任（CSR）とは広報やマーケティングの一部、やらなければならない『責任』と考えられがちですが、「会社として地域社会に貢献することを根本とするべき」とアリさんは言います。BBGではいわゆるCSR業務を担当する部署を『奉仕する』という意味の英単語『フィランソロピー』と呼んでいます。

「倉庫や建物を作るのはとても楽しいです。ひまわりプロジェクトなら、再生可能エネルギー業界の情報を扱う本業のノウハウも活かせると思います。これからもボランティアとして、この事業とハビタットのさらなる発展に貢献したいです」と語るアリさんの挑戦は、まだ終わりません。

**編集後記**

今号からリニューアルしてお届けするハビタット・ジャパンのニュースレター。
これまでのエッセンスは残しながら、写真やイラストを織り交ぜて、シンプルで分かりやすい形に仕上げました。
ますます広がるハビタット・ジャパンの取組み、現場の声や支援への想いを、これからもたくさん載せていきたいと考えています。（事務局）

Habitat for Humanity® Japan

特定非営利活動法人 ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷 1-13-11 CHARI 千駄ヶ谷 4F
Tel: 03-6459-2070　Fax: 03-6459-2071
E-mail：info@habitatjp.org　URL：http://www.habitatjp.org

ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパンは、住宅を建てることでコミュニティを築く自立支援型NGOとして、これまで、人種、宗教、国籍に関係なく世界約100の国と地域で60万軒余の住宅建築支援を行ってきました。